

ひらきひらかん山の奥まで

国内編

龍王殿落慶

昭和六十三年五月十一日

教祖様が守護神として祀られていた龍神は、法華経行者の守護神でもあります。もともと龍は東洋においては古代から大衆に崇拜された架空の動物であり、特に雨乞いの神であり、水の神として農民達にとっては農耕を守るための大きな拠り所でありました。

龍が昇天する姿を見ても分かるように、龍は上昇気流によって立ち昇る雲の姿であります。つまり龍とは雲のことであり、水が姿を変えたものであります。大自然の大きな恵みを受けることは、法華経の実行ある処にこそ可能であります。

末広工業関係者及び水野初藏氏夫妻



▲龍王殿地鎮式にて 鎌入れをされる管長猥下



教祖御聖地復興保存会

教団の開祖、杉山辰子先生を知る人は次第にへり、教祖さまの業績は年々人々の心の中から薄れてゆく。
教祖さまが命をかけて布教された聖地は、時代と共に移り変わり、当時の

面影がなくなってしまう。
教祖さまの心は、私たちが教祖さまの聖地に立つて知ることが出来ます。
永遠にその偉業を遺す為にも、確かな証をつくらねばとの声が沸き上がり、

教祖御聖地復興保存会が発足し、昭和六十二年七月十九日に発会式が行われました。
そして最初に、白川の御聖地（開覚の地）に昭和六十三年十月二十三日、頌徳碑が建立されました。次いで笠松の御聖地（生誕の地）に平成三年十一月三日、教祖立像が建立されました。



発会式にて挨拶される管長猥下



本堂にて説明を聞く委員(宣教師)及び副委員(教会代表者)



白川頌徳碑地鎮式をとり行う宣教師(昭和63年1月10日)

教祖御聖地

頌徳碑除幕

〔百川〕

昭和六十三年十月二十三日



除幕の瞬間

教祖像除幕〔笠松〕

昭和六十三年十一月三日



献花をされる管長猋下



式典の後、焼香をされる信徒





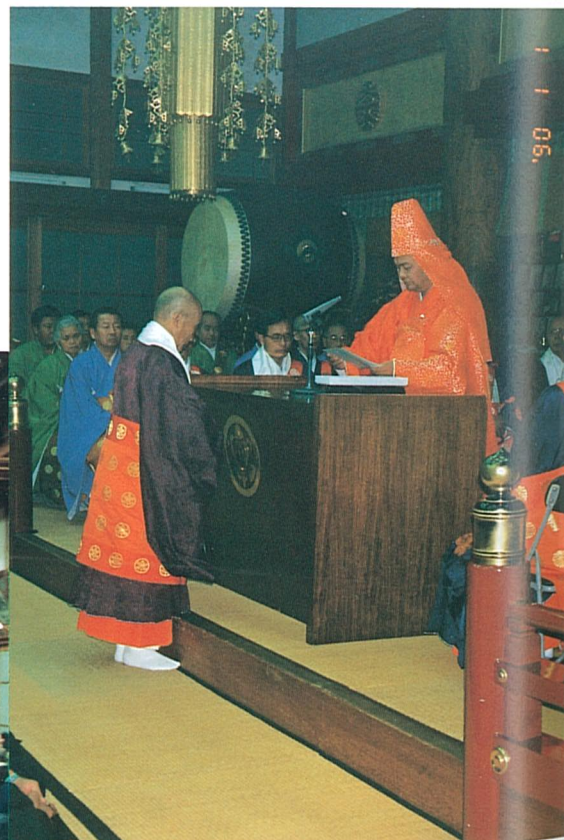
元旦会



本堂前境内にて大護摩供養が行われる



初鐘を打たれる管長猊下



森法誠先生副管長に就任(平成2年1月1日)



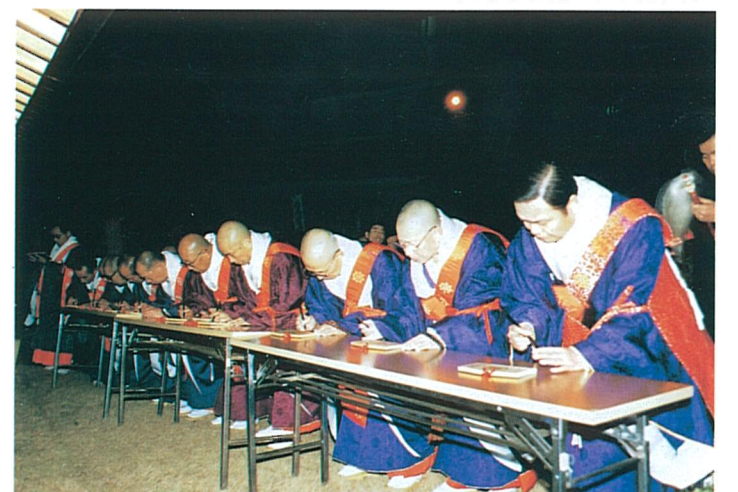
鐘楼堂夜景

除夜祭

龍王殿での読経



絵馬を奉納される宣教師





本堂玄関に祀られた誕生仏

降誕会

御詠歌奉詠



涅槃会



本堂にて読経がいとなまれる



涅槃像前にて御詠歌を奉詠



教会代表の厄男・厄女の行列



仏舎利塔二階ベランダより豆をまく厄男・厄女

節分会



本堂にて景品つきの豆をまく管長猥下





仏舎利塔に向かう宣教師及び安立行旗



管長祝下が献花される



教祖殿にて御詠歌奉詠



誓願帳提出

教祖大祭

教祖杉山辰子先生の御恩報じの教祖大祭は、年々盛大裡に行われ、厳かに営まれます。教祖さまのお心に立ち帰ろう。開教の原点に戻ろう。心新たに初心に戻って一層の精進こそ教団の発展につながるものであります。一人一人が教祖さまの御教えを、

より学び、より理解し、より実践することとは、信徒としての重大な使命であります。この自覚こそ大切であり、とかく緩みがちな信仰心に、一年に一度は教祖さまの御精神を甦らせなくてはなりません。これこそ教祖さまの御恩に報いることだと思えます。



奉納舞踊 東一宮教会婦人部

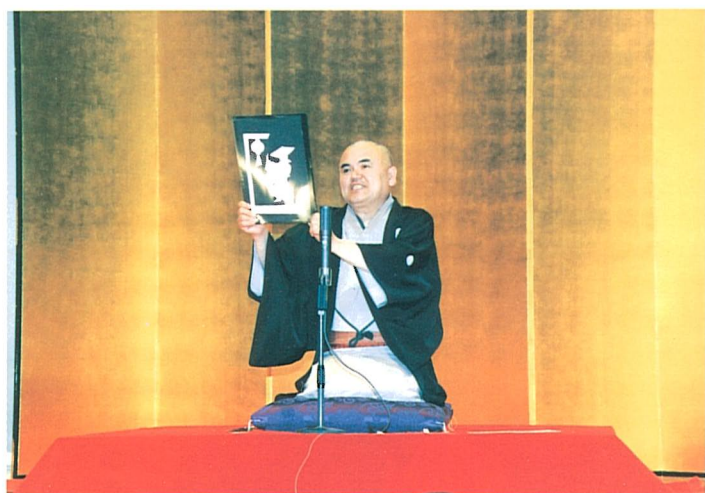


祝賀会にて舞踊をされる小林法寿先生

奉納舞踊

記念祝賀会

演芸会



紙切り 林家 正楽



落語 三笑亭 夢楽



漫才 あした ひろし、順子



奇術 アサダ二世



右から
柴垣法隆副管長 祝下
杉崎法浦管長 祝下

就任十周年を迎え、お祝いの
花束をうけとられた管長・副管長

管長・副管長 就任十周年記念

昭和62年5月10日



鏡開きをされる管長・副管長
乾杯をされる宣教師の面々 (左下)
記念品の目録をうけとられる (右下)





◀のど自慢大会で熱唱する子供たち▼



福引抽選会(平成3年5月12日)



マジックショー 鶴舞マジック・クラブ



各教会による模擬店が
本堂前境内と幼稚園運動場に
設けられ、にぎやかなひと
ときをすごす





管長猊下の挨拶

私たちの信仰は、ご指導して下さった人、励まして下さった人、共に心の支えになって下さった人によって成り立つものであります。今は亡きそれらの方々に、ありし日を偲び感謝申し上げます。

この式典は昭和三十九年五月十日、先師法要会として営まれたのが始まりであります。昭和四十四年より秋季に行われるようになりました。先師並功労者物故者追善大法要は、昭和六十年より秋季大祭と改名されました。



読経中、献花される管長猊下

読経される 御信徒



秋季大祭



各自燈籠を手に本堂前にて行列



先師遺族の記念写真



御信徒による焼香



▲ 献灯の儀



▶ 献菓・献茶の儀

副管長 柴垣法隆先生御逝去

教団葬 平成元年四月十六日

廣宣院殿安立法隆大法師

俗名 柴垣 助信

【略歴】

明治43年7月1日愛知県一宮市奥町に生まれる
昭和7年10月 名古屋市の愛知時計に就職
12年2月 入信
17年8月 全国技能競技大会において優勝
20年10月 宣教師を拝命
23年10月 刈谷教会長に就任
47年1月 権大僧正に任ぜられる
52年5月 副管長に任ぜられる
平成元年4月4日午後11時27分逝去〔行年八十歳〕



前正覚山を模してつくられた祭壇



副管長 山中法臣先生御逝去

教団葬 平成六年一月十六日

廣宣院殿安立法臣大法師

俗名 山中兼一

【略歴】

明治42年10月12日名古屋市市中区正木町に生まれる
昭和12年2月 入信
21年10月 信徒総代に任命される
40年6月 名古屋熱田教会長に就任
47年1月 権大僧正に任ぜられる
52年5月 副管長に任ぜられる
平成5年12月30日午後6時13分逝去〔行年八十五歳〕



焼香をされる御遺族

知立教会入仏式

平成2年5月20日



御祓いを受ける稚児

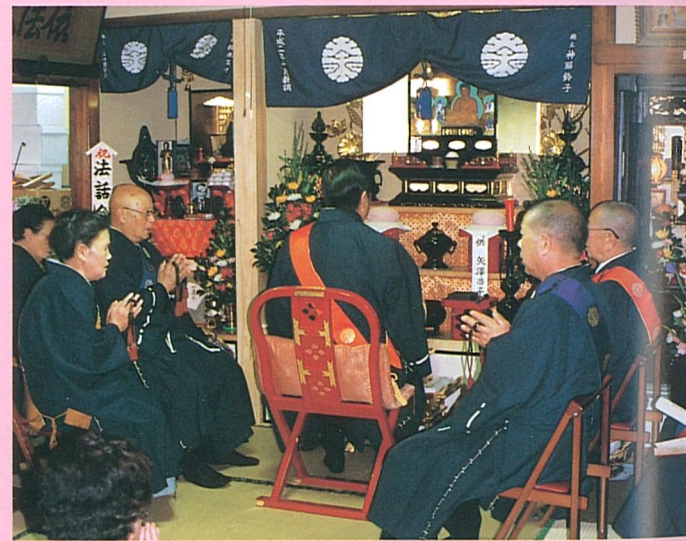


開眼の筆入れがなされる



堤教会入仏式

平成2年4月1日



中濃教会 落慶式

昭和62年11月29日

新築なった教会へ向う宣教師の行列



初代管長 小坂井啓陽猊下 三十三回忌法要

平成元年5月11日



前管長 杉崎法山猊下 十三回忌法要

平成元年1月8日



大乘学園

大乘学園始まる。昭和五十七年四月一日開校。

大乘教の創始者杉崎法山親下の御教導あつてこそ、今日の私たちの宗教活動は出来るのであります。法華経を依経とする教団は日本に多くありますが、教祖さまの理念に基づく教団は他にありません。日々の家庭生活や社会生活の中に、三徳の実行が実践されることに、釈尊の仏法が生きています。

この理念がいついまでも守られなくてはなりません。正しき教えを伝え指導する後継者の育成をして教団の発展につなぐものであります。



第一期生



第三期生



第五期生



第二期生



第四期生



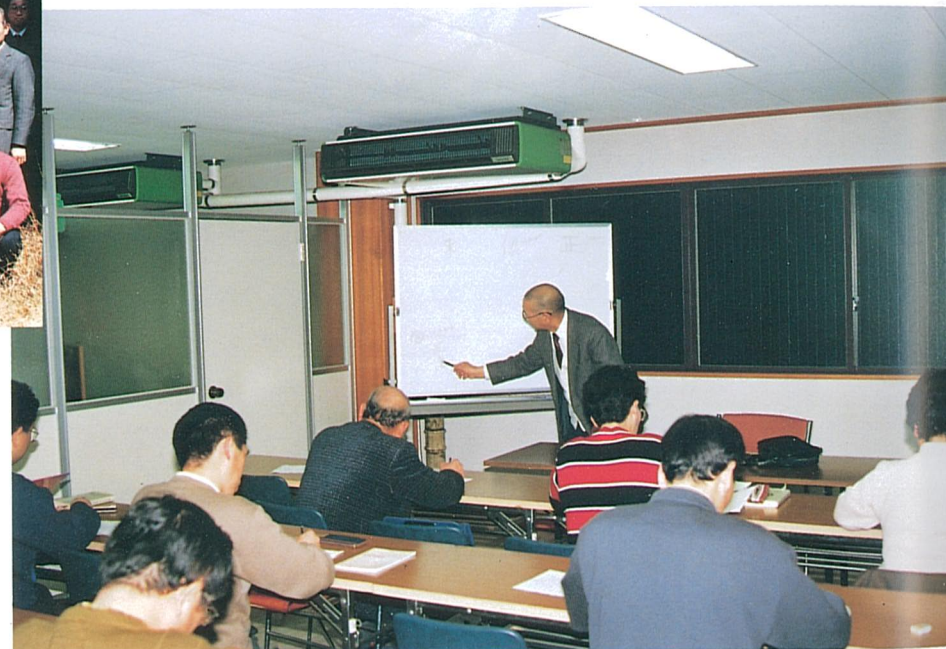
第六期生



第七期生



修学旅行 教祖御聖地(白川)にて



学園の授業風景



修学旅行 教祖御聖地(藤森)の大仏跡地にて



修学旅行 白川の蔵田寺庚申堂前にて